

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 648 件

2016 年 6 月



地域医療連携のさらなる推進

総長 山下 純正

平成 28 年熊本地震により被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。
私は、平成 28 年 4 月 1 日をもって神奈川県立こども医療センター総長に就任いたしました。

この度、担当部署名として永らく親しんできた「母子保健局」から「地域連携・家族支援局」に名称を変更いたしました。この部署では、御紹介いただいた患者様の事務手続き、地域医療機関との連携、退院・在宅医療支援、小児がんを含めた医療福祉相談など多岐にわたる業務を行っていますが、名称変更により業務内容や当センターにおける取り組みがより一層皆様にご覧いただけることを期待しています。

当センターは開設時より完全紹介予約制を標榜し、地域の医療機関との密接な連携の下で診療を行ってまいりました。近年ますます医療機関との連携の必要性が増大してきています。

理由として、一つは小児医療や周産期医療の役割分担が年を追うごとに進展していること、二つ目は急性期高度専門医療に社会資源が投入されるようになってきており、医療機関の特徴が注目されるようになってきています。背景には、医療の進歩が目覚ましいことがあげられます。三つ目は在宅医療が推進されていることです。社会的には、高齢者の在宅医療が制度としても整備進展してきていますが、小児期こそ家族と一緒に生活することが重要であることには論をまたないのです。医療が必要であっても、家庭で過ごせるように、当センターでは工夫や研修を行ってまいりました。実際に、最近数年間にわたり小児等在宅医療連携拠点事業のもとに、小児の地域連携推進に力を入れてまいりました。

今年度は地域医療連携ネットワークシステムの運用も予定されており、地域医療機関との連携を強化し信頼を受けるように努力してまいりたいと思います。

今後もこどもたちの健やかな成長と大きな未来のために貢献したいと願っております。





アレルギー疾患の根治療法を目指して

アレルギー科 栗原 和幸

治療には色々なレベルがあります。アレルギー疾患の治療薬にも多くの種類がありますが、これらは症状を一時的に軽くするものです。アレルギー性鼻炎に抗ヒスタミン薬内服やステロイド点鼻薬などが使われますが、何年続けても、病気が根本的に治る（治癒する）わけではなく、薬をやめれば再発します。実際、小児のアレルギー性鼻炎は数十年後も治っている可能性は非常に低いことが分かっています。軽症のスギ花粉症であれば、花粉の多く飛ぶ3月にちょっと薬を使うという方法でも良いのですが、一般的な薬で十分な効果が出ない、大量の薬を長期間必要とする、毎年強い症状で悩まされる、薬の副作用がしやすい、などの場合には、通常の薬物療法とは異なる治療があります。



アレルゲン免疫療法

減感作（げんかんさ）療法という昔からの呼びかたも使われますが、原因となるアレルゲンを少量から徐々に増量して、最終的には大量を投与することで、反応をおこしにくくする治療法です。この治療は数年以上実施する必要があり、またアレルギー症状誘発の危険性がありますが、治療を中止しても、その後長期間、うまくいくと生涯にわたって、効果が持続する可能性があり、アレルギー疾患の唯一の根治療法です。



舌下免疫療法（SLIT）と皮下免疫療法（SCIT）

わが国でもスギ花粉症やダニによるアレルギー性鼻炎に対して SLIT という方法が新たに認可され、マスコミでも報道されているので、ご存知の方も居られると思います。しかし、SLIT は現時点ではスギ花粉とダニの2種類しか治療薬がなく、また、12歳以上でないと使えません。

ところが、もともとの免疫療法として長い間実施されている方法が **SCIT** で、世界的には **100** 年の歴史があります。但し、注射なので痛い、強いアレルギー症状が起こる危険性がある、などで敬遠されてしまい、欧米では盛んに行われているのにわが国ではほとんど廃れてしまった状態です。当科では大事な治療と考えて継続しています。医師の関心が低いために製薬会社も良い薬を作らないという悪循環が起こっていましたが、スギ、ダニに関しては良い製品が使えるようになり、ブタクサ花粉もあります。その他に、当科ではイネ科花粉、シラカバ花粉、イヌ、ネコ、などの治療用アレルゲンを輸入して使っています。

SLIT は、初回の投与のみ外来で実施して、以後は自宅で行いますが、数年間、毎日行うことが必要です。**SCIT** には、色々な実施方法がありますが、当科では原則、急速法で開始しており、最初に **2** 週間程度の入院が必要です。その後は外来で、**2** 週から徐々に間隔を広げて最終的には **2** ヶ月に **1** 回になります。入院中は院内の養護学校に転校して通学しながら実施します。現時点でのこの両者の評価は、効果は同等か **SCIT** が上、安全性は **SLIT** が上、とされています。**SCIT** では数種類を同時に治療できますが、**SLIT** では **1** 種類のみ可能です。



免疫療法の対象疾患

一番の適応は季節性（花粉症）および通年性（ダニアレルギー）のアレルギー性鼻炎です。喘息もアレルギーの関与が強ければ効果が期待できます。また、早期に免疫療法を行うことで、次々に他の物質にアレルギーになるのを防ぐと考えられます。イヌやネコのアレルギーがあつて、どうしても飼いたい、飼っているのをやめられない、職業として接触したい、などの場合も治療対象になります。ハチアレルギーは稀なものですが、命に関わることがあり、**SCIT** が良く効くことが証明されています。

もう一つ、ハンノキ、シラカバ、ヨモギなどの花粉症から果物・野菜のアレルギーに進行する患者さんが最近増えています。この場合、原因になっている花粉に対する免疫療法を行うと野菜・果物アレルギーが改善することがあり、研究的に実施しています。

食物アレルギーに対しては、これらの方法を使うことは出来ず、食べて治す経口免疫療法を当科では、**2007** 年、わが国では最初に開始しています。

神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第44回 循環器連携カンファレンス

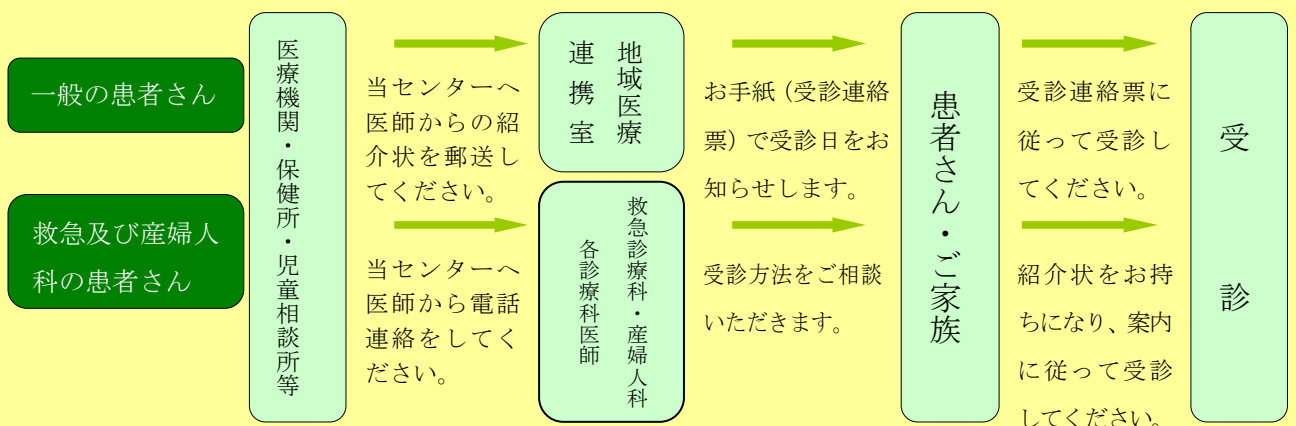
- ☆ 日時：平成28年8月5日(金)18:00~20:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

第12回 小児重症例検討会

- ☆ 日時：平成28年10月7日(金)19:00~21:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等の医師からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状の添付資料(画像やフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。

※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933
<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/> ホームページ

